

平成29年1月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成29年1月24日(火)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	14時55分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安田充年	教育次長	天野和弘
統括審議監	小西洋史	審議監(学校教育担当)	三宅泰司
審議監(生涯学習担当)	後河正浩	審議監(教育人事財務担当)	石井雅裕
教育企画総務課長	赤野政治	学事課長	奥橋健介
学事課移譲担当課長	原直樹	指導課長	岡林敏隆
指導課教育支援担当課長	服部道明	地域子育て支援課副主査	福武重人
事務局(教育企画総務課主査)	生田裕宣	事務局(教育企画総務課副主査)	中村陽子
5 議題及び結果			
第1号議案	岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の廃止について。	原案可決	
第2号議案	平成29年度の全国学力・学習状況調査への対応について	原案可決	
6 教育長等の報告 [平成28年12月10日(土)～平成29年1月13日(金)]			
12/18	おかやまイングリッシュビレッジ事業 [イングリッシュカフェOSS②]	地域子育て支援課	
1/8	新成人の集い	地域子育て支援課	
1/9	新春子ども会かるたとり大会	地域子育て支援課	
1/13	市民協働推進モデル事業 中学生だっぴ(岡山中央中)	指導課、生涯学習課	

<p>奥津委員</p>	<p>○ 新成人の集いに行かせてもらった。天気が悪く新成人がみんなドームの中にいたのが良かったのか悪かったのか。人数はかなり来て盛況であったが、なかなか話を聞く態勢ではなかったのではないかという感じもあった。仕方のない面もあるのだろうが、せっかくいろんなイベントをしても、イベントに対する参加率はあまり高くなかった。去年は天気が良かった分ドームの中に入らなかったということもあったが、何か今回の件で反省点や、今後について議論がされていたら、教えていただきたい。</p>
<p>地域子育て支援課副主査</p>	<p>○ 今年度の新成人の集いは雨が降ったということで、私も5年目になるが、新成人の集いで今まで見たことのない人数が、どんどん中へ入っていった。公表の参加人数は5,300人となっているが、ドームの中に4,000人以上が入っていたのではないかと思う。例年であったら、市長の挨拶等のときは席が多少埋まるけれども、それが終わるとばらばらと出ていくという感じだが、本年度はずっとステージ前の座席も1塁側スタンドもほぼ埋まっている状態だった。前年度もそうであったが、今年度はドームにいかに入ってもらるか、そして式典とその後のブースの方、式典が終わった後とでいかにけじめをつけた式典ができるかということを目指していたが、人数という点もあり、ざわざわしたことは決して否めないかと思う。ただ、座っておられる方々、前列、中列辺あたりの方々は挨拶等に関しては静かに聞くという態度で臨んでおられたのではないかと思っている。後ろのほう、スタンドのほうの方々は、多少その意識が薄いのかなというように感じた。</p> <p>式典が終わった後、ブースの方をあけて企画をオープンしたが、それも過去に比べてたくさんの方々にご参加いただいた。手紙のコーナーで今までにない数の手紙を書いて恩師の方に贈るだとか、そういった様子が見受けられた。</p> <p>来年度についてだが、これも例年同じようなことを言わせていただいているが、式典等けじめのある集いにする。それから、岡山ドームにいかに入ってもらかということが毎年課題になっているけれども、去年、今年あたりで功を奏しているのは、事務従事に関わってくださっている方々に「中にお入りください」という声かけ、それから「前から詰めてお座りください」という声かけをしていただいたことで、一昨年前に比べ昨年の方が入っていただいて、聞く態度がとれたということであったので、引き続きそういったことをしていくことが今のところの対策ではある。また、ほかにもいろいろ策を練っていかなければならないなというところであるが、抜本的なところはまだまだ苦しいなというところがある。</p> <p>以上である。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 同じ成人式のところだが、ご苦労さまであった。今回は、受付にたどり着くのに時間がかかるぐらいたくさん中に入っていて、あれはあれで盛り上がるかなという感じがした。年々何かセレモニーがシンプルになっていて、今年は選挙管理委員会の人のご挨拶もなかった関係で短かった。短い分だけあとは実行委員会に任される部分が多くなるのかな、工夫の余地があるのかなという感じで見せてもらった。</p> <p>ボランティアでたくさんの中学生在が寒いのに外でも中でも頑張っていたと思うが、ああいう子たちが成人式を見てどうだったとか、自分がボランティアをしてどうだったとか、何か感想等を書いたものはあるのか。</p> <p>○ 感想を書いてもらうというものは用意していなかったが、本人たちも5年たって中学校を卒業して、あのとき見たのがよかったからということで、実際に実行委員になってくれる子も数人いる。また、当課で行っているいろいろなイベントにボランティアで来てくれている子がリピーターというか、何度も新成人の集いを含む当課のイベントにやってきてくれていて、毎回、屋台の方々だ</p>
	<p>地域子育て支援課副主査</p>

	<p>とか、関わってくださっている大人の方々が声をかけてくださる。そういった時に、頑張っているなど声をかけてもらえるのがうれしいという声もよく聞くので、中学生にとっても有意義な時間になっていると思う。</p>
藤原委員	<p>○ そうだと思うので、ぜひ新成人の人たちにもその声を届けてあげてほしいと思った。その年にその年の感想というのは難しいと思うが、中学生から見た新成人がどうか、少し頑張れるのかなと思う。今年は中に入っていたが、余りにも中に入らない年とか、騒がしく言っている姿を見て厳しいことも書けばいいと思うし、自分たちのやりがいも書けばいいし、新成人に期待する事というのを1年遅れでもいいから、伝えられるブースを用意してあげるとか。そういうことでつながっていくし、ボランティアの子たちも励みになるかなという感じがする。あの冷たい中ですごく頑張っていた子がたくさんいたので、新成人とつながればいいかなと思った。</p>
教育長	<p>○ ドームはわりと反響が強い。ざわざわするのでも反響するし、挨拶のマイクも反響して少し聞き取りにくかったり、なかなか音響的には厳しいのかなと思う。場所的にはいいかなと思う。雨が降ったら、この前は到着できるかどうかという感じで、割と余裕を持って出たが、大変だなと思った。</p>
石井委員	<p>○ そういう意味でいうと、ドーム以外の候補地はなくて、やはりドームということでもいいのか。</p>
教育長 地域子育て支援課副主査	<p>○ いろいろ動いてきてはいると思うが。 ○ 数年前よりご指摘があったのでいろいろ候補地は検討している。岡山シンフォニーホールや、県営グラウンド、浦安や今までやっていたところ、市民会館など、いろいろ探してはいるが、立地条件や交通の便、それから駐車場の関係からして、今のところドームしかないなという結論に至っている。</p>
教育長 藤原委員	<p>○ 事業報告について、ほかにはあるか。 ○ 4番目の中学生だっぴについて、もう何年かずっと続けられていると思うが、年々何校が手を挙げるのか、推薦するのか。それから市民協働推進モデル事業で市教委というか、学校関係と絡んでいるのが何々事業があるのかというのを教えてもらいたい。</p>
指導課教育支援担当課長	<p>○ まず、校数だが、去年は岡山中央中学校1校だけだった。今年4校増え、足守中学校が6月、瀬戸中学校が7月、それから岡山中央中学校が今回報告の1月であった。2月25日の土曜日に吉備中学校がある。去年、市民協働モデル事業のニーズ調査を行って、全部の中学校をスタッフの方が回られてどういう形で何年生でやるのがいいのかとか、地域の方をどうやったら集められるだろうかとか、そういうことを調査をされた上で今年の4校となった。当然、だっぴさんとしては拡大をしていきたいという方向性は示しておられる。 市民協働推進モデル事業について、指導課が絡んでいるのはこのだっぴの事業と、それからもう平成27年度で終了している、フリースペースあかねの事業の不登校支援である。この事業はその後連携を続けているが、市民協働モデル事業としてはもう終了している。 以上である。</p>
教育長 審議監（学校教育担当）	<p>○ ほかに意見はあるか。市民協働事業としてはこれだけか。 ○ L G B T といつて、性的マイノリティーの団体の方と、岡山っ子育成局も絡んでいるが、人権関係で今回パンフレットを岡山っ子育成局の指導で作成した事業がある。</p>
藤原委員	<p>○ モデル事業でなくても、こういう事業が学校、子どもたちと絡むのはいいと思う。これだけ市民協働と言っているわけだし、ほかの価値観や専門性が入ってくるのはとてもいいことなので、ぜひ教育委員会が窓口としていろいろ関連するような事業を引き寄せてあげたらいいのではないかなと思う。よろしくお願</p>

<p>塩田委員 指導課教育支援担当課長</p>	<p>いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回の概要と参加者人数を見ると多いけど、生徒が半分ということで、そのほかはどんな方が来られているのか。</li> <li>○ 生徒が107人で残りの104人の内訳は、大学生、大学院生が52名、それから地域の方、保護者の方が52名、この中には実は大森市長も入ってくださって、今回市長も加わってのだっぴが行われた。 内容としては、1人1冊スケッチブックを手元に持ち、取り上げたテーマに基づいて、自分の思いを語っていくというスタイルをとっている。そのテーマの内容としては、いろんなこと、自分が学生だったときに給食で何が一番好きだったかとか、そういうソフトな話題から、なぜ今の職業についてのか、中学生はどういう職業を目指しているのかとか、そういうようなことを語り合うというものである。今回、今まで言われたことでうれしかった言葉は何かといったことを画用紙に書いて1人ずつしゃべっていった。大体1グループ9名から10名で、大人半分、子ども半分がそのグループに加わって語り合っていた。子どもにとっても大人の話聞くというメリットがすごくあるが、大人が子どもに向けてそういうことをしゃべる場というのがなかなかないということで、大人の方にも大変好評である。集めるのが大変であるが、岡山中央中学校の場合は、おやじの会等がリーダーシップをとっていただいて、たくさん集まったと聞いている。</li> </ul>
<p>藤原委員 指導課教育支援担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市長さんも輪に入られたのか。</li> <li>○ 入られた。</li> </ul>
<p>藤原委員 指導課教育支援担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何と書かれたのか。</li> <li>○ 市長が何と書かれたのかは確認していない。</li> </ul>
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これだけ人数がいたら計画・準備される方は大変だと思うけれども、いい企画のようなのでぜひ多くの中学校で経験できたらいいと思う。</li> </ul>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際身近に大人を見る機会が少なくなってきていて、それでもって自分の将来を決めていく一つの資料になるわけで、周りの大人というか、そういうのがこういう組織でやってくれると助かると思う。キャリア教育と言いながら、実際は身近な大人と接する機会を持ったという、そういういい取組だろうと思う。キャリア教育というのが今ものすごく強く叫ばれていて、学力テスト等にも有益だというような話もある。要は自分で目標を持っていくということが非常に大切だという、そういうことのようにだけれども、その一つの形だと思う。</li> </ul>
<p>石井委員 指導課教育支援担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ お話しされたのかもしれないが、それをさらに難しくない形でより展開するためにはどういうことが必要になってくるのか。</li> <li>○ 38中学校でやるというのは、実は1年では恐らくできないだろうと思っている。なぜかという、大学生の方がキャストとあって、要はそのグループで音頭を取り、こんなテーマについて話をしていこうというようなことと、それから内容を盛り上げていくという役目になっている。かなりスキルを高めていった大学生が来てくれるのだが、この1月17日というのはセンター試験の日なので集まりやすい。というように、大学生が今非常に忙しいので、大学生を集めるのが大変である。 今度実施する吉備中学校は、生徒数が非常に多い。岡山中央中学校は107人というのは中学校2年生全員の数なのだけれども、吉備中学校はその倍以上ということで、その分大人の数をふやさないといけない。人を集めること、会場を確保すること、寒い時期にそれこそ体育館で暖房のないところというわけにはなかなかいかないので、そういったことを考えると、1年間で6、7校やるのが多分精いっぱいではないかというところである。 それから、規模によってはできない可能性もあるので、市のほうで事業化を</li> </ul>

<p>藤原委員</p> <p>指導課教育支援担当課長</p> <p>藤原委員</p>	<p>していくということも当然検討はしているけれども、難しい部分もあるというのが現状である。そこをどうクリアするかということをお話していかないといけないという感じである。</p> <p>○ 今聞いたのは、アクセスであるとかいろんなことで、多分学校支援ボランティアの限界と共通するところがある。だから、そこも相乗りしながら、例えば大学の体育館を借りるとか、周辺部にも大学があり、大学生はいるわけで、ファシリテーターみたいなスキルアップは大学でもできるわけだから、そういう何か工夫ができないか。そういう意味でいえば、岡山中央中学校ももちろんいいが、毎年ここでやっているからとても恵まれていると思う。中心部ではあるし。だけど今のお話を聞くと、やりたくてもできないところも規模や、スタッフ等の問題があると思うので、ほかのところとも連携するようなことで広げていけないといけないのではないかと。推進モデル事業がなくなってもやろうと思ったらできるような形のほうがいいと思うので、周辺部の学校も手を挙げて、こちら何かサポートできるようなことになったらいいのではないかと聞いていた。</p> <p>○ 一つ紹介すると、今度やる吉備中学校は中国学園大学との合同開催である。そこは暖房があるところできるので、期待をしている。</p> <p>○ 公民館もあるし、どこでも市の施設であったり大学の施設で工夫すれば、冷暖房完備を探せばいいかもしれない。</p>
--	--

7 議事の概要

<p>教育長</p> <p>全委員</p> <p>教育長</p> <p>全委員</p> <p>教育長</p> <p>全委員</p> <p>教育長</p> <p>教育長</p> <p>学事課移譲担当課長</p> <p>教育長</p> <p>石井委員</p> <p>教育長</p> <p>石井委員</p> <p>学事課移譲担当課長</p>	<p>○ただいまから1月岡山市教育委員会定例会を開会する。 本日は、傍聴希望の方が1名おられる。入っていただいてよいか。</p> <p>○〈承認〉</p> <p>○日程第1。会期について本日1日限りとしてよいか。</p> <p>○〈承認〉</p> <p>○日程第2。12月の定例会の議事録に問題がなければ署名をお願いする。</p> <p>○〈承認〉</p> <p>○日程第3。事業報告は今回4件であるが、ご質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)</p> <p>○日程第4。第1号議案について学事課から説明願う。</p> <p>○岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の廃止についてである。 県費負担教職員の標準的な職については、従前岡山県教育委員会の規則に基づいて本規程を制定していたところであるが、平成29年4月1日から県費負担教職員が市への税源移譲に伴い、岡山市教育委員会の標準的な職に関する規程の中に含めるということになるので、本訓令を平成29年4月1日から廃止しようとするものである。 こちらについては、先般の教育委員会協議会でご説明した後に市長にも廃止について協議をしたところ、承認を受けたので、本日改めて本委員会に廃止についてお諮りしたいということである。 以上である。</p> <p>○ご質問、ご意見はないか。</p> <p>○教職員への規程に関する説明等は、どういったスケジュールで、どういうふうに説明がされるのか。</p> <p>○現場の教職員へということか。</p> <p>○この対象になる教職員へということだ。</p> <p>○本議決を得た後、今年度中に、各学校宛てにこういったことで改正になると</p>
---	---

<p>藤原委員</p> <p>学事課移譲担当課長</p>	<p>いう通知を出すような運びになると思っている。</p> <p>○ この前の協議会で配布された標準的職の遂行能力に関しての関係の資料は、規程が変わったら学校現場にまた公表するのか。事務局が持っているだけのものなのか。</p>
<p>藤原委員</p> <p>学事課移譲担当課長</p>	<p>○ 今回の改正、廃止を受けて、新しく決まったものについては、実際の評価を行っていただく際に、一連のものとして、こういう規程があつてこういう様式が決まったという説明とあわせて、各学校のほうに周知なり依頼をしていくことになろうかと思う。</p>
<p>藤原委員</p> <p>学事課移譲担当課長</p>	<p>○ そうしたら、周知の時期は、この規程をお知らせして少し間があくのか。</p> <p>○ 間はあくかもしれないが、評価するまでには伝えたいと思う。</p> <p>○ 同時でいいのではないかという気がしなくもないが、その辺はいろいろやり方あると思う。</p>
<p>藤原委員</p> <p>学事課移譲担当課長</p>	<p>○ 周知の時期について、どれだけ、どのようなものを出すか、事務局内で改めて確認させていただきたいと思う。少なくとも今年度中に合わせてのほうがいいのではないかという意見になついているので、そういう形にしていこうと思う。</p>
<p>藤原委員</p> <p>学事課長</p>	<p>○ せっかくいろんなことが変わる節目になるので、総合的に学校も見直さないといけないところがあると思うし、行政職とは違うということも含めての職務遂行能力について何かの形で早いうちにお知らせするのがいいのではないかなという気がしている。</p>
<p>藤原委員</p> <p>学事課長</p>	<p>○ 今あつたご指摘のことについては、現在作成中である。校長先生のご意見もいただきながら、教員、学校の現場に合うように読みかえをしたりして作つていっているので、今年度中にこれの方向性は示せるものと思っている。</p>
<p>藤原委員</p> <p>学事課長</p>	<p>○ ぜひそうしてほしいし、それから校長職の在り方も学校の在り方も少しずつ変わってきているわけで、今まである形のものがこれからの時代に合わないところもあるかもしれないから、そのあたりを少し柔軟に、特に評価に取り入れることになると思うので、規程が変わるといふことに合わせて考えてもらえればと思った。</p>
<p>教育長 全委員</p> <p>教育長 全委員</p>	<p>○ ほかにご質問、ご意見はないか。よろしいか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、第1号議案を原案どおり可決してよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p>
<p>教育長 指導課長</p>	<p>○ では、原案どおり可決する。</p> <p>○ 同じく第2号議案に移る。指導課から説明をお願いします。</p> <p>○ 平成29年度の全国学力・学習状況調査への対応について審議のほどをよろしくをお願いします。</p>
<p>教育長 指導課長</p>	<p>資料の7ページをごらんいただきたい。</p> <p>調査の概要についてはそこにあるとおりで、今年4月18日に、小学校6年生、中学校3年生について教科に関する調査と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を行うものである。</p>
<p>教育長 指導課長</p>	<p>資料の10ページをごらんいただきたい。</p> <p>4番に調査の実施体制とある、(1)調査は文部科学省が、学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村教育委員会、学校法人、国立大学法人、公立大学法人等の協力を得て実施すると書かれている。これを踏まえて、改めて参加について決定をしていただこうということで本日提案をさせていただいている。</p>
<p>教育長 指導課長</p>	<p>資料の8ページへ返っていただきたい。</p> <p>そこには本調査の目的が記されている。全国的な児童・生徒の学力や学習状況</p>

	<p>を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ると、学校における児童・生徒への教育指導の充実、学習状況の改善等に役立てるというような目的が記されている。</p> <p>改めて7ページのほうをごらんいただきたい。</p> <p>それを受けて、そこの3つ目のところに参加のねらいとして3点掲げさせていただいている。この3点を参加のねらいとしてこの調査に参加をしたいと考えている。</p> <p>なお、1つ上の実施要領の変更点に戻っていただいて、昨年度までの実施要領に加えて、そこに5点、調査結果のデータを研究に役立てるということ、それから都道府県の公表に加えて指定都市の調査結果も公表するという、小学校調査の結果を中学校に送付するという、保護者に対する調査、これは抽出により実施をするということであるが、こういったこと、それから法改正に伴う修正、これは岡山市に該当はないが、全国的に見ると新たに数校あるという変更がある。それも含めてご審議いただければと思う。</p> <p>○ これを見ると若干変更しているところもあるが、何かご意見、ご質問はないか。</p> <p>石井委員 ○ 今ご説明いただいた調査の目的と参加のねらいというのは、見る立場が違うのかもしれないが、内容的に完全に一致しているということでのよいのか。</p> <p>指導課長 ○ 子どもたちの学習改善、学校の取組、それから教育施策の状況把握や改善というところで一致していると考えてもらって結構かと思う。</p> <p>奥津委員 ○ 保護者に対する調査を抽出ということなのだけれども、どのような形で抽出して、何人規模で、どれぐらいの規模で実施する予定なのか。</p> <p>指導課長 ○ まだ詳細なところはこちらまで届いていないが、平成25年度に同様の抽出調査が行われている。それに準じた形で行うものと考えている。恐らく数校程度、文部科学省のほうからこの学校にお願いしたいという依頼があって、岡山市教育委員会を通じて依頼するものだと思っている。</p> <p>奥津委員 ○ 選ばれた学校の保護者全員ということになるのだったか。</p> <p>指導課長 ○ 全員になると思う。</p> <p>教育長 ○ 全員とは。</p> <p>指導課長 ○ 学年指定で。</p> <p>塩田委員 ○ 今回新しくなった点で個人データ等を大学に提供するというところがあるけれども、これまでも把握、分析はされていたと思うが、これがつけ加えられることによってどういうことができるのか。</p> <p>指導課長 ○ これは、子どもたちの学力の状況、それから改善に向けての取組がどの程度有効だったかというところを専門機関によって調査研究を行うといったものと理解をしている。そういったことの研究結果がまた何かの施策によってこちらにもおりてくるのかなということで想定をしている。</p> <p>なお、個人情報の関係があるが、これについては改めて文部科学省がガイドラインを設定して、それに沿って行うということで実施要領にも定められているということである。</p> <p>塩田委員 ○ 今やっている、例えばいきいき学校園づくりなどにそういったものが反映されるとかということは考えられているか。</p> <p>指導課長 ○ これまでもいきいき学校園づくり等で学校へ行ったときには、その学校の状況について担当の指導主事と学校が協議しながら課題を共有し、改善に向けての指導助言等にも当たっていたので、今後もそういったものは有効活用していくということで予定をしている。</p> <p>藤原委員 ○ 同じような、7ページの実施要項の変更点の1のところだが、大学の研究者に貸与することができるのは、これは大学が手を挙げたら文部科学省が提供す</p>
--	---

指導課長	<p>るのか、それとも文部科学省がここの教育系の大学の学部に研究してほしいと提供するというようなスタイルなのか。</p> <p>○ これは大学からの申請があって、それを文部科学省が適切かどうかということ審査した上で情報提供するという流れというふうに理解している。</p>
藤原委員	<p>○ 例えば、研究者だからこういうことを研究したいというのが、ここの大学の先生もいて、別にもいたら、切り口が同じでも違って重なってもどうやっても全部提供してくれるようなやり方を予想しているのか。</p>
指導課長	<p>○ 資料の13ページに調査結果の活用が記されている。1つは一層多面的な分析や研究が行われるようにというところ、それからイの(ア)にあるが、学術研究の振興、高等教育の振興または施策の推進のためにという目的でもって適すると文部科学省が判断した場合に定めた専門機関に、貸与するというふうに理解をしている。</p>
藤原委員	<p>○ 多分うまくいくと思うが、大学の教員は論文を書かないといけない立場にあるので、このビッグデータは魅力的だと思う。それがひいては子どもたちの学力向上や学校の教育力向上にはなると思うが、あっちの大学もこっちの大学もいろんなところがいろんなデータをこれ集め出したら、研究は進むかもしれないが、どうなのかというのが少し心配になった。文部科学省はいいガイドラインを作ると思うが、そのガイドラインが出るのは時期はこの実施の後なのか、それとも実施前なのか。</p>
指導課長	<p>○ 時期についてはまだ聞こえてきていないが、資料に高等教育の振興という記載がある。ということは、恐らく高等学校から大学に向けてのそのあたりで子どもたちの学力がどういうふうに変化してきたのか、そういったあたりも研究の対象になるのかなと思っている。なので、やみくもにあっちもこっちもということではなく、文部科学省が一定のフィルターをかけた上でやるべきではと思っている。そのあたりの動きは注目していこうと思う。</p>
藤原委員	<p>○ それでこの学力状況調査に参加するかしないかということにはならないと思うが、次第に悉皆から抽出になるのではという動きも少し感じられた。これで見るとデータは大きいほうがいいだろうし、悉皆になるのだろう。もう一つが、ダイナミックな動きになるのかというのが何となく感じられた。</p> <p>最終的には子どもたちのところにいかないといけないし、高等教育につながる部分もあるのだと思うが、ガイドラインはしっかり指導課で把握していただき、私たちにも報告いただければと思った。</p>
石井委員	<p>○ 今回から指定都市の調査結果も公表されるということで、前回の会議のときに平成28年度の詳細な結果も拝見したが、岡山市のいいところについてしっかり市民の皆さん、保護者の方に理解していただくということが、これは調査後の対応ということになるのかもしれないが、学校に行くのが楽しいと言っている子どもの割合が圧倒的に平均より高いとか、先生が一人一人のいいところを見つけてくれるということが圧倒的にいいというのを積極的に皆さんに知ってもらうことがすごい価値があるのではないかなと思うが、それはいかがか。</p>
指導課長	<p>○ そのあたりを十分こちらで広報できてなかったという反省は持っている。どうしても学力・学習状況調査ということで学力の部分は簡単に数字で出るので注目されやすいのだが、学習状況の項目が100近くある。それを丁寧に分析して必要な部分を的確に情報提供していくことは今後も努めないといけないと思っているし、各学校にも、各学校の状況に多少差があるけれども、よかった点、それから課題の部分というのは整理しながら積極的にPRしていただきたいと思っている。</p>
塩田委員	<p>○ 私も結果の示し方なのだけれども、公表シートに変わって何年たったのか、</p>

指導課長	<p>3年ぐらいたったのだろうか。何か保護者や学校から意見や感想が聞こえてくるか。</p> <p>○ 特に直接こちらへはないが、今、指導課の担当の指導主事等に指示をしている部分もある。こっちがしっかり読み込んで、今それではどういう動きになっているかということのを学校と共有していきたいというふうに思っている。そういった中で保護者や地域の反応等も聞き取ることができればということで、この3学期の一つの課題にしようと思っている。</p>
塩田委員	<p>○ 状況調査のほう、そういった結果はどんどん地域に還元されて、手伝ってもらえるところは助けていただくみたいなことになるとよいなというふうに思う。</p>
石井委員	<p>○ そういう意味でいうと、よかった点もそうだが、家庭での勉強時間が少ないとか、その辺は結構目立ってそういう部分もあって、それを公開することで何か意識づけになったりする部分もあると思う。改善してほしいという上手なアピールも必要なかなと思うので、よろしく願います。</p>
指導課長	<p>○ 実は、今学校に学習状況の課題をしっかりと見てその中で何点かピックアップをして改善に取り組んでいただきたいということをお願いしており、それをどういうふうに組織的にやっていくかということを考えていく段階だと思っているので、やってみたいと思う。</p>
奥津委員	<p>○ 前回も出たけれども、状況調査ではあるけれども、生徒・児童が真剣に受けなければ意味がないものだろうと思う。ある意味受験ではないし、成績にどうなのかみたいなのところもあるけれども、とにかく真剣に真面目に受けてもらう、特に中学校かなと思うが、そういうふうにとっていくための何か対策というか、徹底というか、何か考えていることはないか。</p>
指導課長	<p>○ 先日、中学校の校長会を通じて、学力・学習状況調査は自分たちのキャリア教育の一つに位置づけるべきであるをお願いをした。将来的に面接で自分の意見を言うとか、論文を書くことは避けて通れない道だから、そのスタートに位置づけて、どういう力が自分たちに必要なのか、今の段階でできているのか、そういったところの自分の状況を把握して、今後の改善に生かしていく、そういう位置づけにしていいただきたいということをお願いした。</p> <p>あわせて、どういう趣旨の調査なのかということを改めて子どもたち一人一人に浸透できるような、そういったシートも今予定をしているところで、先生方がしっかりそれを理解して、そして子どもたちへ指導していけるような、システムをつくっていききたいと今考えている。</p>
奥津委員 指導課長	<p>○ 保護者対策というのはないのか。難しいか。</p> <p>○ 保護者にかかわってもらおうと思ってもう一つ予定しているのが、やった結果を振り返るような、以前少し触れさせていただいたが、振り返りシートというものをやってみたところである。これは組織的にできて、そこへ保護者のコメントでも入れていただいて、保護者と子どもたちが課題、改善すべきところ、それからできているところと、そういったものを共有することができれば少しでも前へ進むのかなと思う。特に小学校の段階でそれをきちっとやっておけば、少し見通しが持てるのかなということで今考えている。</p>
藤原委員	<p>○ さっき指導課長が、今回シートを用意すると言われたので、そこへ加えたらいいかなと思って聞かせてもらったのが、個々の子どもが目標を書く、その目標がただ正答率を高めるとか、結果を上げるとかといったら、それは目的が状況調査とは違ってくると思う人もいるかもしれない。例えば、岡山の子どもは時間が余り過ぎた、何か、本当は足りないはずなのに時間が余ったという人も多かった。だから、時間いっぱい絶対やるぞとか、白紙回答は少なくするか無くすとか、何かそういう目に見える行動のところの目標を書く。第1回の校</p>

	<p>長会は試験までには機会があるか。そういうときのシートの使い方の具体策として何か工夫をしてほしい。今さっきキャリア教育も言われたのだけど、そういうことでB問題に関して自分はすごいこういうことをチャレンジするとか、A問題はこうチャレンジするとか、結果としてはそこからつながるかもしれないけど、途中経過の行動の目標のところでもう少し具体化するようなことを学校が工夫したら、子どもたちもやる気になるのではないかな。さっきから言われている試験への身構え方というのか、そういうものが変わってくる。少し細かく言ってあげないと子どももわからないところがあるので、せっかくシートをつくるのなら、そういうことも考えてもいいのかなと思った。</p>
指導課長	<p>○ 実は、3月の中学校でいったら定期考査が終わった後、小学校でいうと卒業式前後から4月いっぱいなかなか学習習慣が欠落する時期だという捉え方をしているのだから、その時期にどんなことをやっていくのか、生活習慣を維持するとか、どんな学習をすべきかということをや学力アセスと絡めながら小学校の4年生以上の子どもたちに示していくことができないかということの研究をしている。もしそれをやるのであれば、事前の対策シートというのか、作成シートを3月の半ばぐらいには学校へ示して、担任の先生の指導のもとで子どもたちが今の自分の状況を考える、学習時間、それから学習に対する意欲、学校生活の振り返りというふうなことも含めながらチェックをするようなことがあっていいのかなというふうなことで予定をしてみたいと思っている。</p>
藤原委員	<p>○ 自分の勉強のやり方を自分でコントロールできるとか、目標を立てられるとか、そういうことが定着してきたら、それこそこのテストという状況調査をやる、これだけいろんなことでエネルギーも使っている意義が出てくるのかなという気がするのだから、ぜひお願いしたいと思う。</p> <p>もう一つだけ、保護者の調査のところ、家庭状況調査は、抽出なのか、全体なのか。今までもあったのだったら、どういうところを家庭状況と捉えていたのかというのを教えてほしい。</p>
指導課長	<p>○ 平成25年度にやった保護者に対する調査の状況を踏まえてご説明すると、抽出でやっていて、学校数でいうと全国で小・中学校とも4百数十校程度の学校が抽出になっている。対象者としては、小学校で1万7,000人ぐらい、中学校で3万人ぐらいの対象者になっている。調査の概要は、家庭の社会的背景と学力の関係であるとか、さまざまな環境を克服している子どもたちの特徴であるとか、そんな状況が調査項目、調査結果として出ている。</p>
藤原委員	<p>○ これは誰が答えるのか。例えば、経済的にどうだったかというのを保護者が答えるのか。</p>
指導課長	<p>○ 保護者が答える。</p>
藤原委員	<p>○ そのものがわからないが、年収とかの幅が書いてあるのか、それとも生活が困難とか、何とか、そういう。</p>
指導課長	<p>○ そうである。25年の調査問題の主な例を上げると、まずは子どもへの接し方、よく本を読んでいるかとか、遊ぶ友達がいると思うかとか、それから休みの日の過ごし方、子どもの教育に対する考え方、子どもの将来のことについてどう考えているかとか、教育費についての項目とか、学校のこともこの調査対象になっている。学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っているかとか、地域とのかかわり方、地域行事に参加をしているかとか、それから保護者自身のこと、PTAの活動等に積極的に参加しているかとか、保護者自身に本を読む機会があるかとか、新聞をどの程度読んでいるかとか、それからあとは家庭環境である。年齢構成であるとか、常勤の職員かあるいはパートかといったあたりまでの質問項目が25年度にあったので、恐らくそれに沿った内容になるのかなと思っている。</p>

藤原委員	○ 具体的によくわかるが、経済的と言われたのは、今の教育費という項目なのか。例えば教育費にどのくらいにかけているかという聞き方なのか、それとも生活そのもののレベルのことを聞いているのか。
指導課長	○ 25年度の調査では、世帯収入についての問いもあるので、そういったあたりが経済的な相関関係を調べる一つの質問だったのだろうと考えている。
藤原委員	○ 多分、いろんな学力との関係は、仮説を立てたらそのとおりの結果は出ているのだと思う。ひょっとしたら違うのがあるかもしれないけれども、そういうことがデータで出ているのだったら、しっかり結果を岡山の自分の学校の様子とかではなくて一般論で言えるわけだから、しっかり家庭に返してほしいと思う。今までもこの家庭状況を返していたのか。
指導課長	○ すみません、そこは。
藤原委員	○ 理想がこの辺で自分ではできないわと言う人がいるかもしれない。それでも、例えば接し方とか過ごし方とかというのは、こうやれば子どもにとっていいというのは、頭でわかってもデータでちゃんと出たらやってみようかという人もいると思うので、これだけ大きな調査があるわけだから、学力の結果だけではなくて、ぜひ活用してほしいと思う。25年度と聞き方が同じになるのかどうかわからないが、多分配慮はした聞き方になるのであろう。いきなりダイレクトに聞くようなことや特定できるようなことにはならないのだから、(後の活用はやりやすいのではないかと思うので、)これだけちゃんと調査の目的が書いてあるということは、後の活用をして、過ごし方や考え方も大きく関係しているのではないかなという気はするので、お願いしたいと思う。
石井委員	○ 保護者への調査の抽出というのは誰が抽出するのか。
指導課長	○ これは文部科学省が決めて抽出してくる。どの学校か多分決められてくるのではないかと思う。
石井委員	○ わかった。例えば岡山市で見たときに平成25年度と比較しようと思っても、抽出されたところが違ってきてたりすると、単純にそれを比べたりするのはなかなか難しいということではないか。
指導課長	○ 難しいと思う。全国的な状況のほうの把握になると思う。
石井委員	○ ということだな。わかった。
藤原委員	○ 傾向がわかるということだろう。そのものずばりの時系列の変化はわからない。
教育長	○ では、例年どおり参加していくということで、原案どおりということで可決してよいか。
全委員	○ 〈承認〉
教育長	○ では、第2号議案、原案どおり可決をする。 本日予定していた議案の審議は全て終了した。 以上をもって平成29年1月教育委員会定例会を閉会をする。

傍聴の状況		
報	道	1名
一	般	0名

